



地方独立行政法人
那覇市立病院



日本医療機能評価
機構認定病院

臨床研修医

募集のご案内 2023

Try & Grow,
No limit



責任者あいさつ・研修医紹介

心のこもった医療を、地域のために



当院は沖縄県の県庁所在地である那覇市にあり、沖縄県で唯一沖縄都市モノレール駅と直結している病院です。国内外の30都市以上の路線を結ぶ「那覇空港」へは好アクセスです（モノレールで23分）。

市民医療の確保及び健康と福祉の増進を図ることを目的に那覇市が昭和55年に14診療科を有する総合病院として開院しました。現在では470床、33診療科を有し、那覇市はじめ近隣市町村の中核病院としての機能を担っています。

平成11年には那覇市救急診療所統合により一次救急から二次救急まで24時間・365日、一貫した医療体制を確立しました。平成20年4月1日、近年の厳しい病院の経営環境に迅速かつ柔軟に対応していくために、全国公立病院の中でも先がけて地方独立行政法人へ移行し、活力のある病院運営を目指しております。

当院は、離島を含めた約70万人の南部医療圏を支える急性期病院であり、24時間365日救急医療を行っています。また、拠点病院として地域を支えるがん医療を実践しており、地域医療支援病院として医療機関と連携をはかり、地域という大きな枠でのチーム医療を展開しています。

臨床研修指定病院としての当院の特色

研修プログラム責任者 豊見山 直樹

当院は「和と奉仕」の理念に基づき、1980年の開設以来40年余にわたり、質の高い、安全な医療の提供を目指して地域医療を担ってきました。2020年度からは、外間 浩理事長・院長の元、地域住民のみならず、職員からも「働きやすく」、「学びやすい」と選ばれるような病院となるよう、2025年に予定されている新病院開院に向けて、夢のある病院、やりがいのある病院作りに勤んでいます。

2020年からコロナ禍に見舞われ、一時的に救急や一般外来の受診制限をかけざるを得ない状況になることもありますが、当院の特徴は例年、年間35,000から40,000人の救急患者対応、4000件を超える救急車搬入など、地域を支える救急医療にあります。小児科、周産期を中心とした1次から2次救急のほか、脳卒中、心疾患などの高度救急への対応を日々行なっています。

空席であった救急科の常勤医師も確保され、現在、ポストコロナの救急需要の再増大に向けて、救急体制を急ピッチで再構築しているところがあります。

もう一つ当院の特徴は、全体で120名余りの各専門科の医師が、熱心に研修医教育にあたっているところです。各科指導医の行うモーニングレクチャーや、実際の症例から学ぶcase based learning, CPC, 放射線読影講座が毎日のように開催されています。これらの各専門科のベテラン医師と研修医を間を繋ぐのは、当院で初期研修を終えたのち、国内各地で専門研修を受けて知識や技術の習得後に当院に戻ってきた、皆さんの先輩に当たる医師たちで、臨床研修制度の初期の医師たちは、各科の中心的存在に成長しています。彼らは、当院の研修制度を十分に理解しており、研修医指導のみならず、その相談役もしています。皆さんの良き理解者として、また身近なロールモデルとなり得る存在の医師が多数います。

また研修管理室をはじめとした多職種のスタッフも、皆さんの研修を支えています。呼吸療法認定看護師や臨床検査技師が参加して行う人工呼吸器実践研修やエコー勉強会、栄養士を中心とした臨床栄養の勉強会などがあり、参加した研修医からも非常に好評です。

皆さんと共に、夢のある病院、やりがいのある病院を作り上げていく日々を首を長くしてお待ちしています。



研修医紹介



当院では琉球大学をはじめ、全国から多くの研修医が集まってきます。出身地や出身大学が異なる、様々な個性の揃った研修医が当院で切磋琢磨しています。

これまでの研修医の出身大学

北海道大学、弘前大学、筑波大学、東京医科大学、昭和大学、東京女子医科大学、東邦大学、帝京大学、杏林大学、横浜市立大学、北里大学、岐阜大学、滋賀医科大学、大阪大学、大阪市立大学、近畿大学、関西医科大学、奈良県立医科大学、山口大学、川崎医科大学、香川大学、愛媛大学、高知大学、福岡大学、産業医科大学、久留米大学、佐賀大学、長崎大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学

研修プログラム

那覇市立病院初期臨床研修プログラム

目的

本院における初期臨床研修は、将来の専攻科にとらわれない、すべての臨床医に求められる基本的な診察に必要な知識、技術、態度を身につけ、病める人の全体像をとらえることの出来る全人的医療の習得を目的とする。

研修プログラムの特徴

- すべての研修医が本院（二次医療機関）、診療所（一次医療機関、研修協力施設）及び琉球大学病院（三次医療機関、研修協力病院）における医療を経験でき、研修医各人の希望に添うローテーションプログラムの選択ができる。
- 希望の診療科へのローテーションが可能な「選択」期間の設置。
- 家庭医を実践する医療施設との提携による充実した地域医療プログラムによる研修が可能。
- 指導医及び若手医師の屋根瓦方式による教育指導体制。

研修スケジュール

① 基本研修

2年間で、内科7か月、外科3か月、小児科2か月、救急科2か月、産婦人科1か月、脳神経外科1か月、精神科1か月、麻酔科1か月、地域医療1か月で行う研修を基本研修とする。

② 選択科研修

5か月 自由選択は2年次研修にて行う。

〈選択科目〉

内科、外科、小児科、産婦人科、脳神経外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、精神科、放射線科、麻酔科、救急科、病理科、形成外科、眼科

※選択科協力病院：琉球大学病院（全診療科から選択可）、日本海総合病院（全診療科から選択可）、南部医療センター・こどもセンター（救急科）、浦添総合病院（救急科）での研修も可能。

ローテーションのモデル

1年次 診療科	内科 6ヶ月			外科 3ヶ月	麻酔科 1ヶ月	救急 2ヶ月
------------	--------	--	--	--------	------------	--------

2年次 診療科	内科 1ヶ月	産婦人科 1ヶ月	脳神経外 科 1ヶ月	小児科 2ヶ月	精神科 1ヶ月	地域医療 1ヶ月	選択科 5ヶ月
------------	-----------	-------------	---------------	---------	------------	-------------	---------

内科は、総合内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、腎臓内科、内分泌・糖尿病内科、血液内科(2年次)のグループをローテートします。

充実した教育体制

・モーニングレクチャー

年間約 200 回

教育熱心な上級医により、年間を通して非常に多くのレクチャーが行われており、日常診療に役立つ知識・技術が得られます。

月



Case Based Learning

各科の上級医が臨床現場でよく立ち会うような問題や、見逃してはいけない疾患、興味深い症例などを、実際の症例を通してレクチャーします。

火



内科症例検討会・Grand Round

症例検討会では、初期研修医が実際に経験した症例を提示します。現病歴や身体所見から Problem List・鑑別診断・必要な検査を挙げていき、最後に臨床経過や文献的考察についての発表があります。診断に至るまでの過程を、上級医も交えながら熱く議論します。

水・金



基礎臨床講義

各診療科の上級医から幅広い知識や技術を学ぶことができます。内科疾患だけでなく、眼科・耳鼻科疾患といったマイナー疾患、漢方薬の使い方、ギプスの巻き方など、かゆいところに手が届く講義も多く行われています。2年目になると、1年目へのレクチャーも行います。

木



画像診断読影勉強会

レントゲンから CT、MRI まで幅広い症例の読影方法を、放射線科医師から学びます。年に1~2回は、院外・学生対象の講演会も行い、その際は研修医がプレゼンテーションを行います。

研修医の一日

内科・外科・小児科

内 科

6:00～ 採血当番

1年目の半年間は病棟患者の採血を行います。朝は眠く、採血の難しい患者さんに悪戦苦闘することがあります

7:00～ 各種レクチャー

当院での早起きは3文も4文もお得！各科上級医による熱いレクチャーがあります。

8:15～ 内科カンファレンス

当直帯で入院となった患者さんの申し送りがあります。ローテーションしている科の入院症例がある場合は早めにアドミッションを送りましょう。

8:30～ プレラウンド

自分の受け持ちの患者さんについて、まずカルテでバイタルと経過表をチェックし、その後ベッドサイドで診察します。しっかり情報収集をしてグループ回診に備えます。

9:00～ グループ回診・病棟回診

患者さんのプレゼンテーションを行うのは、研修医の大切な仕事の一つです。プレゼンテーションをもとに、治療方針をグループで議論します。その後、病棟の回診を行います。



13:00～ 病棟業務

入院サマリーの作成や、検査・治療のオーダー、指示出し、病棟カンファレンス、新規入院患者対応など、仕事は多岐に渡ります。検査・治療の助手に入ったり、上級医指導のもと実際に研修医自ら検査・処置を行うこともあります。



16:00～ 夕回診

新規入院患者さんのプレゼンテーションや、午前中にオーダーしていた検査の結果確認などを行います。

20:00～ 当直

当直はERを担当し、様々な問題に対して上級医と相談して対処していきます。

外 科

8:00～ 外科カンファレンス

術前術後の症例を研修医がプレゼンを行い、治療方針を気まます。

8:45～ (カンファレンスが

グループ回診。所属するグループで結果をもとに上級医と治療方針を決

9:00～ 手術1例目

1例目の手術が9時から9時半に始



13:00～ 手術2例目

手術件数は日によって異なります。2が終わり次第、病棟業務を行います。



17:00～ 夕回診

午後の検査結果をチェックし、上級医

18:00～ 準夜勤・当直

初期研修医は1週間に1、2回程度、祝日は日直(8:30～17:00)として

すが、半年経つ頃にはかなりの自信がつきます。

(週2回)

テーションし、外科全体でディスカッション

ない日は8:00～)

回診を行います。前日のバイタル表や検査
めます。

まります。主に第2助手として手術に参加し



例目の手術がない場合には、1例目の手術



と相談し治療を行います。

火曜日は準夜勤(18:00～22:30)と土、日、
救急業務があります。

小 児 科

7:00～7:30 担当患者診察・採血

病棟回診に備えて、夜～朝にかけての変化をチェックし、プレゼンテーションの準備を行います。指導医と共に、採血を行います。

8:00～ 勉強会(月)・NICU回診(火)・抄読会(水)・総回診(木)・症例検討会(金)

各専門医によるレクチャー、最新医学論文の読み合わせ、初期・後期研修医のプレゼンテーションによる症例検討などが行われます。

8:30～ 朝病棟回診

自分が担当する患者さんの回診を同じグループの先生方と行います。朝確認した患者さんの情報を共有し、治療方針の相談などを行います。

9:00～ 病棟業務

回診で決まった検査や治療の指示出しや、カルテ・サマリー記載、診療情報提供書の作成などを行います。また、新規入院患者さんの問診・診察を行います。合間を縫って、指導医の先生と新生児の診察や採血なども行います。



14:00～ 予防接種(月・木・金)

指導医と共に、小児の予防接種を行います。

16:00～ 夕方病棟回診

朝回診後の患者さんの変化を確認し、夕方回診に備えます。患者さんの状態についてプレゼンテーションを行い、治療方針についてグループで検討します。必要な患者さんについては、当直医に申し送りを行います。

17:00～19:30 小児救急

急病センターで、当直医や上級医と共に小児救急を担当します。1か月間は指導医と診察を行いますが、その後は自分で診察を行い、帰宅または入院の判断を指導医にコンサルトします。

研修医の学会発表

当院では、2年間の初期研修期間で最低1回学会発表を行うことを修了要件としています。日常診療で経験した貴重な症例を、上級医の指導のもと様々な学会で発表します。昨年は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、学会発表の機会が減少したため院内発表が多く目立ちましたが、Withコロナへとシフトチェンジをした2022年は発表会を開催する学会が増え、研修医の発表する機会も増えました。

発表一覧（18期生）

鎌田 真輝

演 題：小児呼吸器疾患に対する台風の影響についての検討 他1演題あり

喜舎場 一貴

演 題：急性期脳梗塞に対する“t-PA skip” Mechanical Thrombectomy

松本 佳大

演 題：直腸癌に対する腹腔鏡下高位前方切除術後に発症した残存S状結腸捻転の1例 他1演題あり

屋宜 尚太郎

演 題：COVID-19の治療中に起きた腹直筋血腫、腸腰筋血腫の1例

平安座 啓

演 題：小児の胆石症・総胆管結石症に対し、腹腔鏡手術を施行した一例

松元 純大

演 題：非感染性心内膜炎の一例

金城 大智

演 題：頻回の反射性失神に対して、心房細動アブレーション治療が著効した一例

銘苺 正行

演 題：内視鏡的捻転解除術を行った横行結腸軸捻転症の1例

砂川 智恵

演 題：胆嚢出血で手術を要した胆嚢腺腫の一例

長嶺 さつき

演 題：甲状腺腫瘍との鑑別を要した頸部紡錘細胞脂肪腫の1例

上間 道仁

演 題：心房期外収縮がトリガーとなったTorsades de pointesの1例

各科紹介

〈基本研修〉

内科 必修科28 週間

2 年間で、内科28 週間、外科12 週間、小児科8 週間、救急科8 週間、産婦人科4 週間、脳神経外科4 週間、精神科4 週間、 麻酔科4 週間、地域医療4 週間

〈選択科目〉 28 週間 自由選択は 2 年次研修にて行う。

内科、外科、小児科、産婦人科、脳神経外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、精神科、放射線科、麻酔科、救急科、病理科

内科 必修科 28 週間



内科7ヶ月で循環器、呼吸器、消化器、腎臓・リウマチ、内分泌、血液、総合内科、脳神経内科の7つのグループをローテーションします。毎日の回診では、初期研修医が「病歴と身体所見」を重視したプレゼンテーションを行い、診断そして治療について指導医と一緒に決定します。また、上級医指導のもと、検査や処置などにも積極的に関わってもらいます。症例数も豊富で多くの症例を経験できます。

当直では、急病センターではwail-Inや救急搬送された患者さんの初期対応を行い、診療は屋根瓦で行われており、必ず上級医と一緒に診察します。

各部ループの指導医はそれぞれの科の専門医資格だけではなく、多くが総合内科専門医をもっておりGeneral mindを持った指導医が多いのが特徴です。内科専門医を取得するためのプログラムもあり、初期研修のみではなく、充実した専門研修を行うことも可能です。

外科 必修科 12 週間



1年目の必修科で3ヶ月間研修します。1ヶ月毎違うグループに所属し、グループのほぼ全て手術に助手として入ります。3ヶ月目は、所属グループ以外の所属にも入り、消化器・肝胆膵・乳腺・甲状腺・呼吸器・小児外科等の外科全般の症例を経験することができます。虫垂炎の手術においては研修医1年目でも執刀医となるチャンスがあります。当直は週に1回程度、急病センターの外科を担当します。当院は2次救急指定病院であり、救急患者は年間4万人です。その約1割が外科の患者さんでcommon diseaseを中心に幅広い症例を経験することができます。

救急科 必修科 8 週間



当院の急病センターは、1次から2.5次救急までの診療を実施しています。救急受診患者数は例年約40,000人、救急車の搬送件数が約4,700件あります。2020年度はCOVID-19対策としての受診制限で受診者数が12,000人ほどに減少しましたが、救急車搬送要請には4,125件と可能な限りの応需をしています。救急のローテート期間中は救急部スタッフと共に主に日中の救急診療を担当します。救急専門医のもとに救急診療を基礎から学び、頭痛、眩暈腹痛、動悸といった日常診療でもよく遭遇する疾患から、ショック、脳卒中、心疾患、呼吸不全といった緊急で救命処置を要する重症患者までを経験することが可能です。指導医の元で、これら様々な疾患にファーストタッチで経験を積み重ねる事他に、心肺蘇生法、外傷初期対応、ショック対応などに対する対応に関するレクチャーも定期的に行っております。救急部のコ・メディカルスタッフはてきぱきと仕事をこなしながらもとても親切で、様々な事を教えてくれます。

麻酔科 必修科 4 週間



指導医とのマンツーマン体制の手術症例を通し、気道確保、用手換気、気管挿管、静脈・動脈ライン確保といった基本的手技を身に付け、全身麻酔や脊椎麻酔、呼吸循環のモニタリングおよび麻酔管理の基礎について学んでいきます。具体的には、術前回診から麻酔方法の決定、麻酔前の準備、術中・術後の疼痛管理までを担当することになり、研修後半になればやる気次第で様々な手技を経験することができます。希望すれば2年次での再選択も可能です。

産婦人科 必修科 4 週間



2年次のローテーションで1ヶ月間必修としています。当院は急病センターを抱えており、腹痛を主訴に受診される女性も多く見受けられます。

その際に鑑別疾患として異所性妊娠（子宮外妊娠）や卵巣腫瘍捻転など女性特有の疾患が挙げられることもあります。産婦人科で研修を行うことで、診療を行う上でより診断の幅が広がるものと思います。

また病棟では切迫早産や妊娠高血圧症候群などの妊娠管理だけでなく、分娩（経膈分娩や帝王切開術）、子宮筋腫などの婦人科疾患の手術にも参加していただきます。

当院には新生児集中治療室（NICU）もあるので那覇・南部地区のハイリスク妊婦が搬送されてくることも多く、緊急帝王切開術や低出生体重児の処置などを多数経験することができます。産科・婦人科ともに充実した研修を行うことができます。

産婦人科志願者は希望により2～3ヶ月間の研修期間を設定することもできます。

小児科 必修科 8 週間



小児科では、2年次の必修ローテートとしてとして2ヶ月間、選択で更に1～4ヶ月間の研修ができます。小児科は、24時間診療を行っています。救急患者数（小児）は年間約15,600人で県内でも有数で全国的に見てもかなり多い症例数に対応しています。疾患としては肺炎・気管支炎などの気道感染症、尿路感染症、そして気管支喘息などいわゆるcommon diseaseが多くなっています。他にも髄膜炎や川崎病、ネフローゼといった疾患も比較的よく遭遇し1～2.5次の症例を幅広く経験することができます。NICUも併設しており、おおよその疾患は対応可能です。2年次の主な業務は、病棟での日常診療に加えて、夕方から夜間の救急外来診療です。上級医とともに治療方針を決めていくので、とても勉強になります。

平成29年4月からは、新専門医制度に則って琉球大学小児科とタイアップし、そのカリキュラムに進むことができます。

精神科 必修科 4 週間



研修は基本的に琉球大学病院及び田崎病院（研修協力施設）で行います。指導医とともに精神的治療や社会復帰を経験し、精神科疾患や精神症状への対応について学ぶことになります。

精神科という特殊な分野のようですが、不眠や不安等はいずれかの科に進んでも対応が必要とされる一般的なものであり、初期臨床研修期間中にこれらを学ぶことはとても重要であると思われます。

脳神経外科 必修科 4 週間



当院の脳神経外科の特徴として、脳卒中センターを運営、24時間体制で診療にあたっています。救急医療の中でも特に多い脳卒中の超急性期から急性期の医療とリハビリテーションのみならず、近隣の回復期病院との連携についても学ぶことができます。

当科では、他院と比較して頸動脈ステント、血管バイパス術といった様々な血行再建に関わる手術が多く、その中には、超急性期の血栓回収療法といった高度先進医療も含まれています。開頭および血管内のいずれも定期手術の他に、緊急手術も数多く、時に他院より紹介を受ける高難度な手術症例もあります。これらの手術に助手として参加することで、最先端治療の一翼を担ってもらいます。研修の後半は、急病センターからのFirst callを経験して、主に脳卒中の緊急入院から急性期治療、その後のリハビリテーションへのシームレスな医療を系統立てて学んでいくことが可能となってきます。

整形外科



2年次の希望ローテーションで基本的に1ヵ月間の研修を行います。当院では、四肢骨折、腱断裂などの外傷や、人工膝関節置換術、椎間板ヘルニア・脊柱管狭窄症などの症例が数多く集まります。研修内容は手術の助手として参加することと、入院患者さんの治療にも副主治医として指導医とともに加わってもらうこともあります。外来では、診断のアプローチや、シーネ、ギプス固定を中心に保存療法の技術を学ぶことができます。

皮膚科



2年次の選択科目で1ヵ月間学べます。病棟業務、外来業務、手術、レーザー治療など行っています。帯状疱疹、蜂窩織炎、薬疹などの一般皮膚疾患から天疱瘡などの指定難病、さらには基底細胞癌や有棘細胞癌などの皮膚悪性腫瘍まで基本的な対応能力を習得することができます。外来では生検する機会も多く、局所麻酔、真皮縫合、皮膚縫合を修練できます。当科では顔面領域や四肢の伝達麻酔も積極的に行っており、ブロック手技も学べます。レーザーは炭酸ガスレーザー治療を機械の設定から具体的な手技まで細かく行き渡った指導をしており、レーザー治療を身近に感じることができます。研修医は他科からのコンサルトを中心に、湿疹、白癬、皮膚トラブルなど日常診療でよく遭遇する皮膚疾患の診断、治療を学べます。疾患名が多く、皮膚所見がとりにくいなど皮膚科に苦手意識を抱く研修医の先生も1ヵ月間修練することで、自分で診断できるようになり皮膚科領域に自信がもてるようになります。将来どの科に進んでも有用な基本的な臨床技能を習得できるような素敵で、楽しい皮膚科を目指しています。

放射線科



2年次の選択科目です。朝は7時頃から前日の夜間に撮られた画像の読影をし、9時からは検査技師に1例1例チェックしてもらいながら腹部エコー検査を行います。午後は胸部X線、CTを主に読影します。個人の希望により分野を決めて読影することもできます。

読影レポートはその日のうちにチェックしてフィードバックしてくれます。また重要な救急疾患の画像は課題という形で与えられ、読影後マンツーマンで解説してくれます。

1年目は朝の画像講義がありますが、2年目になると1年目に講義ができるほど力がつきます。また、子宮内出血に対する緊急塞栓術や急性肺炎への動注療法などのIVRを行う数少ない放射線診断医もいます。フレンドリーで教え好きな先生方で、将来何科になるとしても当院の放射線科はお勧めです。

病理診断科



2年次の選択科目で1ヶ月研修できます。病理診断科では、生検検体及び手術検体の組織診断、術中迅速診断、細胞診、病理解剖、更に各臨床科とのカンファレンスなどを行います。病理診断は臨床全科の検体を対象としており、2年次の研修医は、まず、検体処理、標本作製を学び、包埋、HE染色及び特殊染色までの技術を習得してもらいます。病理検体の切り出しは大切な業務で1ヶ月間病理医と一緒に切り出します。最も重要な病理組織診断は、外科の消化器検体から始め、乳腺、婦人科、泌尿器科、皮膚科を経て、生検検体もある程度理解できるように指導します。病理研修を通して、病理診断の楽しさ並びにその重要性に気づいてもらえると思います。

耳鼻咽喉科



2年次の選択科目です。現在の医療は多職種連携が必要とされています。加齢及び脳疾患による嚥下障害患者さんの診療にあたる耳鼻科、口腔外科、言語聴覚士等でのそれぞれの役割と対処法。下咽頭表在癌における消化器内科とのコラボによる手術等があります。また、外来患者さんの呼吸障害、めまいの患者さんの病状把握の一步を耳鼻科独特のツールを通して一緒に学んでいきましょう。

泌尿器科



2年次の選択科目です。

高齢社会となり、泌尿器科的疾患を有する患者は非常に多く、診断から治療、手術、治療後のケアに至るまで包括的に診療を行っております。一般泌尿器科の基本知識、技能を修得し、泌尿器科救急疾患に対応できることを目標としております。

地域医療 必修科 4週間



地域医療研修では県内・離島をはじめ、北海道など様々な研修先があります。離島やクリニックでは、訪問診療など、地域に根ざした医療に触れることができます。また、県外病院では、沖縄県内では見ることが稀な疾患や外傷を経験できます。

研修医の声

初期研修先として那覇市立病院を選んだ理由を教えてください

当院を選んだ理由は色々ありますが、その中で特にと言われたら、病院の雰囲気です。臨床実習の中で、当時の研修医の先生方が生き生きとして日々の業務を行っていたこと、指導医を始めとした上級医の先生方が当時学生だった私や研修医に対して丁寧な指導やアドバイスをしていたこと、そして他の職種の皆様も対応優しく、ここなら何とか生きていけそうだな（笑）と思えたことです。

実際に研修を行う中で良かったこと、苦労したことはありますか？

苦労したこととしては、自分で検査、治療、フォローを組み立てていくことです。国家試験では、問題文の中に、問診内容や身体所見・検査所見があり、それを考慮し治療法を選択する問題があると思います。しかし、この情報を自分で聞き出し、選択していくのは、最初は大変でした。

良かったこととしては、検査・治療を通して患者さんの状態が日を追うごとに改善していく姿を間近で見られることです。退院する患者さんに「ありがとう」と声をかけられると、この道を選んで良かったと改めて感じられます。

指導医の先生たち、医局の雰囲気はどうですか？

当院を選んだ理由と一部被りますが、どの先生方も私達研修医に対して優しく、丁寧な指導があり、病院全体が研修医を育てようという雰囲気が感じられます。また、医局としても各科の垣根が低く、相互にコンサルトをしやすい環境となっています。特に、上級医の先生方は当院で初期研修を行い、後期研修で継続、または別病院での研修後に戻ってくる人も多いため、働き続けたいもしくは戻ってきたい病院なのだと思います。

学生さんへメッセージをお願いします

自分で書いていうのもなんですが、正直上記のことはどの病院のパンフレットにも書かれていますよね（笑）。どういう病院なのかを知るには文章だけではわからないと思います。勿論、人の数だけ思い描く初期研修はありますが、当院での初期研修は、将来の医師人生の中で充実した2年間になると思います。これから病院を決めていく方も、まだ将来のことは先かなと考えている方も、多忙な学生生活だとは承知していますが、一度当院に見学に来ていただけませんか？
当院はスタッフ皆全力で歓迎します！



Cross talk

(指導医×研修医)

那覇市立病院×研修医生活

指導医（腎臓・リウマチ科）／研修医（1年次研修医）



Q1 研修先に那覇市立病院を選んだ理由

指導医

僕は那覇市立病院初期研修医の3期生なのですが、2個上の先輩である1期生がすごいやる気のあるかついい先輩だなと思って憧れて那覇市立病院を選びました。それに初期研修医の同期の仲がよかったことと、症例が結構多くて、僕は学生時代あまり勉強してこなかったもので、とにかくここに入り込めば上がれるだろうということで入りました。これは大正解でしたね。

研修医

私は県外の大学出身で地元（沖縄）に帰ろうと思って、沖縄県内の病院をいくつか見学に行きました。選んだ理由の一つは医局の雰囲気です。上級医の先生と研修医がすごい気さくに喋っていたりとかしたんです。違う診療科の先生同士も仲良く喋っているのが印象的で「すごい！この病院なんか楽しそうだな♪」って思いました。この見学の印象が1番強くて選びました。結構いろんな診療科が揃っている病院だったのでそこもいいなと思いました。

Q2 現在の研修生活はどうか

研修医

何もよく分からない4月に、救急当番をしないとイケなくて、最初は正直ストレスでした。救急当番では、関わったことのない色々な診療科の先生たちとバンバン入っていきます。分からないことを質問したら気軽に答えてくれますが、質問すること自体勇気がある気持ちもあったので、でもだんだん慣れてくると気兼ねなく聞けるようになりました。自分自身で「この検査を出して、この診断は除外する」ということも意識しながら出来るようになってきて、適切な診断への道を歩んでいる感じがします。

指導医

こうしたプロセスは僕らの時もそうでした。学生を卒業したばかりなんだけど、社会人になりつつ、医者っていうポジションももらうので、いっぺんにダブルでボン！ってくるので結構大変でした。

僕らも当時は苦労していたけど今も変わらないと思う。

最初は上手くできないけど、継続してちょっとずつやっていると前はできなかったことがうまく出来るようになってくるんだよね。そうしたコツの習得が、自分自身の自信に変わってくると思うので、そこまで反復していくしかないね。

いつも思うことなんだけど、どの診療科に行っても大変さってあるよね。けれども、その環境で初めて身につくこともあると思う。どんなところでも、何かを吸収してやろうという気持ちはどこに行っても必要だと思う。転びそうになっても必ず何かを吸収して欲しいと思います。

Q3 研修医を指導する上で心がけていることは何でしょうか

指導医

僕がよく言っているのは「医者である前に社会人であれ」と。「社会人としてのわきまえ・常識を持ちなさい」

っていつも言っています。当たり前なことなんですけど、これができていないといけないと感じているからです。

例えば、患者さんのご家族に説明することがあると思います。分かりやすい表現で自分より年上の人と接する機会が多いので、しっかりと押さえておく必要がありますよね。「社会人としてちゃんとあるべきだ！」と
思っているんです。

それと、必ず考える癖をつけることを伝えています。何か質問する時にも分からないからどうすればいいですかと丸投げするよりも、「私はこう思うんだけど、これでいいでしょうか？」って自分の提案をした上で質問するのが良いと思います。このように意識することで、成長速度はすごく変わるので研修医に知って欲しいし、実践して欲しいなって思います。



研修医

先生のそれは凄く実感しています。分からないことがあったら一緒に考えてくれますし、一気に全部言うのではなくて、私たちのことちゃんと考えてくれて、同じ目線でちょっとずつ教えてくれます。正直、いっぺんに教えてもらうと情報オーバーになって、飲み込めなくなるんですけど、研修医のレベルに合わせてしっかり教えてくれるので分かりやすいと思っています。いつもありがとうございます。



指導医

先生は僕が話したことをきちんと実践していて、模本的だなって思っていました。

患者さんが一度に大勢来た時には、情報を整理してから大事なことを指導医へスマートに相談していましたね。ちなみにスマートっていう表現はすごく最上級で、本当に良かったです。

Q4 研修医生活を過ごす上でのアドバイスはありますか



指導医

これは研修医仲間です。断言します。結構青春なんですよ。

同期って同じ立場で頑張ってきた戦友なんで、強く熱く語って切磋琢磨してやっていくのが1番いいんじゃないかなと思う。大変だと思うけれども、大変だからこそ色んな話をして、密に話し合う同期と先輩っていうのが1番いいかなと思う。今はコロナだからあんまり集まって話できないかもしれないけどね。

それと上級医の先生って色んなこと言ってくると思うんだよね。この先生はこんな厳しいこと言っているけど、その厳しさの理由を考えてみたりする。自分の見落としがあったり、新たな気づきもあると思う。その先生の何か良さも感じると思うので、その良いところをこっそり盗んでみるのもいいんじゃないかな。そうするとすごく自分の成長につながると思う。



研修医

そうですね。研修医同士でお喋りするのは重要です。コロナで気軽に集まれないのが残念ですが、毎日のお喋りがホッとする一時だったりして良いですよ。

同期には聞きやすいので、上級医の先生には聞きづらいことやレベルの低いこと、分からないこととかを同期同士で話したりしています。

最後に…話は変わるのですが、指導医の先生って私からすれば完璧だなって尊敬してます。患者さんのために勉強を続けていて、自分だったらこんな先生に診てほしいなって思います。

専門研修プログラム

那覇市立病院専門研修プログラム紹介

本院は専門研修の基幹施設となっているので初期臨床研修修了後、専攻医としてそのまま研修を行うことも可能となっています。当院が基幹施設となっている専門研修プログラムとサブスペシャリティ領域について紹介します。

<専門研修> 内科研修プログラム

専攻医募集人数 ; 5名 プログラム期間 ; 3年

研修施設 ; 那覇市立病院、琉球大学病院、

沖縄病院、沖縄赤十字病院、県立北部病院、

県立宮古病院、中頭病院、

横浜市立大学附属病院、伊江村診療所



受験資格 ; 内科専門医 **プログラム責任者 ;** 田端 一彦

研修施設の特徴

本プログラムは、1年目は呼吸器・循環器・消化器・総合内科の内科主要診療グループを中心にローテーションを行います。連携施設・特別連携施設への研修は合計1年間行うこととし、2年目以降にローテーションします。入院患者数が少なめな神経内科領域は、連携施設である琉球大学病院、沖縄病院での研修を行うことが可能です。沖縄病院では神経内科・呼吸器内科を主に学びます。3年目の3ヶ月間は「希望科」として、症例不足科または、subspecialty 希望科を組むことができます。

ローテーション例

	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
1年目	呼吸器	循環器	消化器	総合内科
2年目	腎臓・リウマチ	沖縄病院	琉球大学病院	糖尿病・内分泌
3年目	伊江村立診療所	沖縄赤十字病院	血液	希望科

<専門研修> 総合診療研修プログラム「ゆい」

専攻医募集人数 ; 2名 プログラム期間 ; 3年

研修施設 ; 那覇市立病院、伊江村立診療所、

県立宮古病院（令和7年度 開始予定）



受験資格 ; 総合診療専門医 プログラム責任者 ; 知花 なおみ

研修施設の特徴

<那覇市立病院>

診療科 33 科、一般病床 470 床。24 時間 365 日小児科医が常駐する ER を有し、令和 3 年度の救急車搬送件数は 4,500 件でした。

<伊江村立診療所>

沖縄本島北部の本部半島北西 9km の洋上に浮かぶ人口 4800 人の離島診療所です。1 日平均外来患者数 110 人、透析センターを有し、村医として学校検診、保育所検診、各種予防接種、在宅訪問診療、特養老人ホームの回診など幅広い医療を行っています。伊江村立診療所では、地域で発生する救急疾患の初期対応、高次救急機関への転送の判断が出来るよう修得していきます。

ローテーション例

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	GIM		小児科			糖尿病・内分泌			伊江村立診療所			
2年目	ER		皮膚科	整形外科		腎・リウマチ科			伊江村立診療所			
3年目	循環器内科	脳神経内科		伊江村立診療所			消化器内科		呼吸器内科	GIM		

*その他の選択科は、外科・整形外科・産婦人科・眼科・耳鼻科・皮膚科から選択できます

＜専門研修＞ サブスペシャリティ領域 消化器病専門研修

専攻医募集人数；5名 プログラム期間；3年

研修施設；那覇市立病院

受験資格；消化器病専門医

プログラム責任者；豊見山 良作



＜専門研修＞ サブスペシャリティ領域 消化器内視鏡専門研修

専攻医募集人数；5名 プログラム期間；3年

研修施設；那覇市立病院

受験資格；消化器内視鏡専門医

プログラム責任者；豊見山 良作



＜専門研修＞ サブスペシャリティ領域 膠原病・リウマチ内科専門研修

専攻医募集人数；2名 カリキュラム期間；3年

研修施設；那覇市立病院

受験資格；膠原病・リウマチ内科専門医

プログラム責任者；喜瀬 高庸



＜専門研修＞ サブスペシャリティ領域 脊椎脊髄外科専門研修

専攻医募集人数；2名 プログラム期間；2年

研修施設；那覇市立病院

受験資格；脊椎脊髄外科専門医

プログラム責任者；屋良 哲也



募集要項・医局実習

令和6年度 募集要項・処遇

募集定員：10名

応募資格：①医師臨床研修マッチングプログラム参加者

②令和6年・第118回医師国家試験合格見込み者、もしくは医師免許を取得済みの者

③当院で医局実習（病院見学）もしくはクリニカルクラークシップを行った者

※③について新型コロナウイルス等感染症流行により来院が出来ない学生についてはこの限りでない。

応募方法：上記応募資格対象者は応募書類を郵送または医局実習（病院見学）の際にご持参ください。

応募書類：①履歴書（様式問わず。顔写真・志望動機 付き）

②成績証明書（1通）

選考方法：書類（履歴書、成績証明書）、面接による選考の上、医師臨床研修マッチングにて決定

◆処遇など

①研修期間：令和6年4月から2年間

②身分：非常勤フルタイム医師

③勤務時間：原則平日（月～金）8：30～17：15 ※日当直（月4～5回）あり

④給与：1年次 月額15,000円 2年次 月額15,000円

賞与・退職金無し（時間外手当あり）

⑤健康管理：年2回の職員健康診断を行うほか、HBs ワクチン及びインフルエンザワクチン等接種あり。

⑥保険等：健康保険及び厚生年金、労災保険及び雇用保険に加入する。

※医師損害賠償責任保険については、研修医個人での加入を必須とする。

⑦学会等：全国学会発表については、当院基準により旅費及び参加費を支給する。

⑧白衣：無償貸与

⑨宿舎：無し

⑩家賃補助：有り（月額20,000円）

医局実習について

受付期間：随時（見学の申し込みは見学希望日の2週間前迄）

対象：4・5・6年次

日数：1～5日間（平日） ※土日祝日・6/23（慰霊の日）・年末年始（12/29-1/3）は除く。

実習対象科：内科・外科・小児科・救急・産婦人科・脳神経外科・整形外科・麻酔科より選択できます。

（内科は呼吸器、消化器、腎臓、循環器、内分泌・糖尿病、血液、総合内科より選べます）

持参するもの：白衣、聴診器、学生証、印鑑（認印可）、筆記用具など。

宿泊費一部補助：病院より提供される宿舎が無い場合、下記に該当する方に宿泊費の一部補助をしています。対象者

（ア）県外の出身で県外の大学に所属している者、（イ）県外の大学に所属し、沖縄県内の遠方出身者

（離島など） ※詳細は、見学申し込み時にお問い合わせください。

選考面接：医局実習の際に、選考面接を受けることができます。希望される方は、実習申込の際に、申込フォームの選考面接欄で選択して下さい。

お問い合わせ

地方独立行政法人 那覇市立病院
人事課 教育研修グループ

〒902-8511
沖縄県那覇市古島 2 丁目 31 番地 1
TEL : 098-884-5111
FAX : 098-885-9596
<https://www.nahacity-hospital.jp/>



モノレールでお越しの場合

- 沖縄都市モノレール
市立病院前駅下車 駅直結

バスでお越しの場合

- 那覇バス
11番 安岡宇栄原線(市内)市立病院前下車徒歩1分
33番 糸満西原線(末吉)市立病院前下車徒歩1分

